

第15回 炭焼き体験と水辺の交流会



元気な参加者34名とスタッフで記念写真をパチリ（奥多摩フィッシングセンターにて）

2023年8月23日(水)、青梅市御岳にある奥多摩フィッシングセンターにて、「第15回炭焼き体験と水辺の交流会」が開催され、34名の元気な親子が参加しました。今年も大人気のイベントで、受付開始後半日で定員になるほどでした。イベント当日は朝から小雨が降ったり止んだりのぐずついた天候で、2組のキャンセルが出たものの、久々にマスクの無い参加者の晴れやかな笑顔を見ることができました。

開会式では、当フォーラムの平岡副会長、青梅市環境部環境政策課課長の並木友道様から主催者挨拶をいただき、おうめ水辺の楽校運営協議会会長の須崎隆様、渡邊運営委員と澤田アドバイザーをご紹介して交流会がスタートしました。

まず、奥多摩フィッシングセンターのバーベキューハウスを借りて、DAIGOエコロジー村長の川口武文先生をはじめ5人の講師による「花炭焼き体験」がおこなわれ、参加者は4班に分かれて松かさやイガ栗、花や葉っぱ等の有機物を炭化させる方法を学びました。

次に参加者はライフジャケットとヘルメットを着用し、ふれあい移動水族館館長で当フォーラム運営委員の山崎愛柚香先生と一緒に手作りの池へ移動し、ヤマメやニジマスのかみどりを体験しました。最初は怖くてなかなか魚をつかめなかった子どもたちも、何回かトライするうちにつかめるようになり、最後には全員がかみどりを体験することができました。

全ての魚をつかみ終わると、愛柚香先生がいけすに設置したテーブルでオスとメスの魚を一匹ずつさばき始め、普段見ることのできない心臓の動く様子や内蔵の仕組み、オスとメスの構造の違い等を教えてもらい、命の尊さも学びました。

魚の観察が終わると、参加者全員でさらに上流の浅瀬に移動。愛柚香先生指導のもと、川の水温に慣れるために水の掛け合いをおこなったり、川の流れに身を任せる浮力体験をしたりしました。その後岩場に移動して、大・小それぞれの高さから飛び込みをおこなう等、川遊びを心行くまで楽しみました。ライフジャケットとヘルメットを脱いだ後は、紙芝居による「水辺の安全教室」を受けました。

バーベキューハウスに戻った参加者は、つかみどりした魚の塩焼きを味わい、炭化させた有機物の出来具合を観察し、お土産に持ち帰りました。

最後に愛柚香先生の閉会挨拶でイベントは無事終了しました。参加した方からは「なかなかできない体験ができて楽しい」、「川で泳ぐことの楽しさと怖さを知れて良かった」、「家族の言葉ではなく、他の大人の言葉が更に子どもに伝わった」といった声が事務局に寄せられました。

当フォーラムでは、「炭焼き体験と水辺の交流会」を教育文化軸の中核事業と位置付け、今後も継続して実施し、子どもたちへの環境教育を実践してまいります。

イベント当日の様様



会場の奥多摩フィッシングセンターは、あいにく朝から小雨が降ったり止んだり。



ぐずついた天候も気にせず、元気な親子34名が参加し、続々と受付を済ませました。



受付を済ませた参加者は、1~4班に分かれて開会式までバーベキューハウスで待機。



開会式は傘を差しながらとなりました。



まず初めに花炭焼き体験からスタート。



炭化させる木の实や花などの有機物を自由に選んで、アルミホイルで包みます。



アルミホイルで包んだ有機物を空き缶に入れ、ワイヤーで十字に結びます。



缶を火にかけ、炭化するまでしばらく放置します。



炭化を待つ間、ライフジャケットとヘルメットを着用して川へ移動。



手作りのいけすで魚のつかみどり体験がスタート！



ヌルヌルするヤマメやニジマスと悪戦苦闘しながらも、なんとか魚をゲットすることができました！



獲った魚を解体し、内臓や動く心臓を観察する愛香先生と子どもたち。



その頃、共催の青梅市職員さんたちはとった魚を丁寧に美味しく炭焼きにしてくれていました。



つかみどり体験の後は川遊び。川の温度に慣れるため、まずは水の掛け合いっこ。



怖さと楽しさが入り混じるライフジャケット浮力体験。



勇気を振り絞って大きな岩からジャンプ！



川遊びを楽しんだ後、紙芝居による水辺の安全教室でしっかり復習しました。



バーベキューハウスに戻り、炭で塩焼きにされたヤマメとニジマスを両手に持って試食タイム。味の違いは分かるかな？



最後に炭化された有機物を確認してお土産にし、多摩川に感謝を込めて「バンザイ！」で閉会しました。参加された皆さん、お疲れさまでした！

